

AOI通信

静岡音楽館倶楽部情報誌
MARCH 2013 No.69

春号

河村尚子 インタビュー

アンサンブル・
アンテルコンタンポラン

コンサートシリーズ第1期ラインナップ

CONCERT REPORT

AOIゆかりのアーティスト
福田進一さん(ギター)

静岡音楽館AOIの
市民会議委員ってどんな人?

シェフ池田の おいしいレシピ



インタビュー

河村尚子

Hisako KAWAMURA

6月22日に行われる、クレメンス・ハーゲン(チェロ)との
デュオ・リサイタルに先駆け、お話を伺いました。



——まず、河村さんの音楽との出会いをお伺いします。

両親は音楽家ではありませんが、音楽鑑賞が大好きなので、我が家ではいつもクラシック音楽が流れています。また、兄と姉が幼い頃からピアノを習っており、自宅のそばにあったピアノの先生のお宅には、遊びでたら始のお稽古についていました。

——小さい頃から常に音楽を聴く環境があったということですね。そこから現在プロのピアニストになられるまで、この道でいこうと決める何かきっかけのようなものがあったのでしょうか？

当時12歳、ボーランド人のバートル・シュライバー先生のレッスンを初めて受けに行ったときです。数時間に渡るレッスンの後、「次回のレッスンまでにプロとしてピアニストの道を目指すかどうか考えてきなさい」という宿題が出されたことです。

——そこで河村さんは何と答えられたのですか？

次のレッスンでは、「職業ピアニストになりたいです。」と答えてしまいました。あの時、このような答えを返していなければ、今はきっと違う人生を歩んでいたと思います。ただこのように答えられたのも、どのような試練が私を待ち受けているかを知らなかったからでしょうね。

——もしピアニストでなかつたら何になりたかったですか？

医者、料理に関係する仕事、教師など。

——ピアノの魅力はどんなところですか？また、演奏をする上で心がけていることはどんなことでしょうか？

ピアノの一番の魅力は、万能な楽器であるということだと思います。たった一人であります。オーケストラが奏でるように一度に多声を演奏できたり、ときにはリートのように歌手と伴奏の二役を、あるいは弦楽四重奏のように四役を務めたりすることもあります。また、打楽器としての演奏効果を務めることもできます。

ピアニストは、基本的に他の楽器奏者のように自分の楽器を持ち歩くことが出来ません。そのため、演奏会場を訪れるたびに、そこにある楽器をいつも新しく知る必要があります。それぞれの楽器の特徴や長所と短所を知ることによって、自分の音楽性をどれだけ出せるかを心がけるようにしています。

——好きな作曲家は？その理由は？

バッハ、ハイドン、モーツアルト、ベートーヴェン、シューベルト、シューマン、ショパン、ブームス、ワーグナー、ドビュッシー、ラヴェル、R.シュトラウス、ブルックナー、チャイコフスキイ、ラフマニノフ、プロコフィエフ、ショスタコーヴィチ、挙げていくと切りがないですね…。

これらの偉大な作曲家は、みな自らの人生を音楽に捧げた人々だと思います。

——さて、今回静岡音楽館AOIの公演では、チェロとピアノのアンサンブルをお客様に存分に味わっていただきますが、ソロとはまた違う、アンサンブルの魅力をお教えてくださいますでしょうか？

ソロでは、たった一人の音楽の世界に聴き手を引き込むことになります。それだけに演奏家自らの発想やファンタジーがはっきりしていないと、曖昧な時間になってしまいます。集中すればするほど、のめり込むモノローグの世界だと思います。

一方、アンサンブルは会話の世界です。主役である語り手を後ろから支えたり、自ら主役になって主張したり、共演者と軽やかに笑ったり、共に考えたり思ひ込んだり。演劇に似た要素があると思います。

——共演されるチェロ奏者、クレメンス・ハーゲン氏について教えてください。

共演は初めてです。このような機会を頂けて、心より感謝しています！

皆様もご存知かと思いますが、クレメンスさんはハーゲン弦楽四重奏団のチェリストとして32年間活動を続けています。

初めてハーゲン弦楽四重奏団を演奏会で聴いた時、4人の音楽家がここまで統一された音楽を作り出せることに驚きました。音質と響き、はっきりと浮き出る発想と幻想の統一性、しかしそ中に引き立つそれぞれのスピリチュアリティ（自発性）は見事としかいいようがありません。

ソリストとしても素晴らしいキャリアの持ち主である、このような素晴らしい音楽家と共に演奏できることを光榮に思います！

——今回、國も時代も違う、様々なチェロの名曲を演奏していただきますが、どういった思いからこのようなプログラムに至ったのでしょうか？

プログラムはクレメンスさんと共に話し合って決めました。

彼はザルツブルク出身で、ドイツ・オーストリア系の音楽を大変得意とする豪情らしい音楽家です。私もドイツ音楽が大好きなので、ぜひベートーヴェンやシューマン、そしてウェーベルンの音楽を日本の皆様の前で演奏したいと考えていました。

また、ロシアの音楽家ラフマニノフのチェロ・ソナタはあまり演奏されない作品ですが、彼のピアノ協奏曲第2番と同時期に作曲されたこともあって、ピアノ部分が大変優れています。また、協奏曲の中にある要素に似たものもたくさん織り込まれています。たいへん聴き応えがある作品です。ドイツ・オーストリア音楽との大きなコントラストとなることでしょう。

——聴きどころは？

新ウイーン楽派のウェーベルンが、若かりし頃作曲した作品から始まります。ロマン派後期を勢いとさせるその甘いメロディーは、一般に知られているウェーベルン像からは想像がつかないかもしれません。

次にシューマンのアーダージョとアレグロはもともとホルンのために作曲されたのですが、今はチェロのスタンダード・レパートリーの一曲。愛と情熱に溢れる作品です。

前半の最後を飾るベートーヴェンのチェロ・ソナタですが、全5曲を通じ、挑戦と実験が続けられているように思います。古典からロマン派にかけて傑作を作り続けた大作曲家がたゆまず求めた新しい発想が次から次へと出てきます。たいへん聴き応えがある作品ばかりです。また、自ら優秀なピアニストでもあったベートーヴェンは、チェロ・ソナタを「ピアノとチェロのためのソナタ」と名付けています。

——長年ドイツで生活されている河村さんがドイツの気に入っているところ、あるいはお気に入りの場所や食べ物をお教えいただけますでしょうか？

時間はゆったりと有意義に使うことです。

天候が不安定なドイツに住む人々は、日が少しでも照り始めると、散歩に出掛けます。日光浴と新鮮な空気を取り込むことを常に心がけている国民だと思います。

ヨーロッパで気に入っている食べ物はチーズです。国によって食べられる種類や量は変わってきますが、柔らかいものから固いもの、マイルドなものから強烈な匂いがするものまでみんな好きです。

——それでは日本食でお好きなものは？

家庭料理が大好きです。例えば、焼き魚、ひじきや小芋の煮物、納豆、さつま芋のみそ汁などです。日本に帰ると必ずスーパーマーケットに行って、日本の食料品を仕入れてドイツへ持つて帰ります。

——日本滞在中の過ごし方を教えてください。

移動が多く、夜が遅くなる事も多いので、なるべく規則正しく生活するようにしています。十分な睡眠を取り、スポーツをして体を動かすことも欠かせません。そしてお気に入りのアロマ・ディフューザー（アロマオイルを水に数滴入れて、空気上に霧の状態で爽やかな匂いを散らす機械）は必須アイテムです。

——最後に、観客のみなさまにメッセージを頂戴できますでしょうか？

静岡市を訪れるのは今回が初めてです。静岡のイメージは新幹線からも見えるお茶畠でしょうか。そして、子供の頃にドイツで何度も繰り返して読んだ漫画の「ちびまる子ちゃん」のふるさとでもありますね（笑）

初めての静岡公演を豪華な共演パートナーと飾ることができて光栄です。クレメンスさんとの音楽の会話を聴衆の皆様と共に楽しめれば幸いです！

——ありがとうございました。コンサートをとても楽しみにしています。

インタビュー：静岡音楽館AOI 村田あゆみ



クレメンス・ハーゲン(チェロ)
河村尚子(ピアノ)
デュオ・リサイタル

6/22 ㈯ 18:00 開演(17:30 開場)

全指定 ¥5,000(静岡音楽館休館料含)¥4,500.22歳以下¥1,000)

静岡音楽館AOI・ホール

出演／クレメンス・ハーゲン(チェロ)、河村尚子(ピアノ)

曲目／A.ウェーベルン：チェロとピアノのための2つの小品

R.シューマン：アーダージョとアレグロ 完曲 op.70

L.v.ベートーヴェン：チェロ・ソナタ第5番 ニ長調 op.102-2

S.ラフマニノフ：チェロ・ソナタ短調 op.19

注目のピアニスト セット券 ¥18,500(静岡音楽館休館料含)¥16,000)

① 6/22(土) クレメンス・ハーゲン 河村尚子 デュオ・リサイタル

② 6/21(土) JAZZ LIVE 山中千尋 ニューエイジ・トリオ

③ 10/25(金) 装原麻衣の室内楽

④ 2014.1/24(金) 中村誠子 ピアノ・リサイタル

静岡音楽館AOI学芸員

小林 旬

学芸員雑記

ユーリ・バシュメット &
モスクワ・ソロイスツ合奏団、再来。

のなかにはヴィオラ・ジョークと呼ばれる、ヴィオラ奏者にたいそう失礼なクイズや小唄がたくさんある。そのひとつ。ヴィオラとたまねぎの違いは？ 一ヴィオラを刻んでも涙する人はいない。もうひとつ。ヴィオラと爆弾の共通点は？ 一音がしたときにはもう手遅れ。さらにもうひとつ。ヴァイオリンを盗まれないようにするためには？ 一ヴィオラのケースに入れておく。…こういうのは、ヴィオラ奏者が自席っぽく言うのであって、ほかの人も言つてはいけないだけだ。弦楽器、だけでなくオーケストラのなかでも地味な存在で、しかし、優しく温かみのある人間味の溢れる音から、こんなひどいジョークも許されているのだろう。

そんなヴィオラの世界にスーパースターとして現れ、その不名誉をものみごとにくつがえしただけではなく、その地位を飛躍的に高めたのがユーリ・バシュメット。彼はソリストとして演奏しながら、その表現力をさらに広げようと弦楽アンサンブル、モスクワ・ソロイスツ合奏団を結成した。「今や20年の長きにわたって弦楽合奏団を率いているわけです。この10年間は交響楽団も率いていますが、弦楽オーケストラはいわば私にとって初恋のようなものでとても大切なものです」と彼は言う。

そのバシュメットとモスクワ・ソロイスツ合奏団が静岡音楽館AOIで演奏したのはもう10年ほど前のこと。2001年2月、500人はどの聴衆がその音をたっぷり堪能した。そのビデオをあらためて観なしてみて、感動がよみがえてきた。1曲め、モーツアルトの未完の協奏交響曲(イ長調 K.Anh.104(302e))から、バシュメットの運びとした音は圧倒的な存在感を示した。2曲めのショスタコーヴィチ、弦楽四重奏曲第13番(変ロ短調 op.138)をヴィオラと弦楽の協奏曲に編曲した演奏では、モスクワ・ソロイスツ合奏団の一糸乱れぬ音程感で、悲痛な不協和音もむしろ美しい。最後の1曲、バシュメットの音に、彼の弓を注視しながらアンサンブルが徐々に、まったくされることなく集束していく。聴くほうもものすごく集中する瞬間、これほど完璧なアンサンブルだった。そして後半はチャイコフスキイのあまりによく知られた名曲、弦楽のためのセレナード(op.48)。4楽章で30分ほどの意外に大曲だが、そんな名曲を極上の演奏で聴けることこそ幸福というはかない。チェロ以外は立て演奏、バシュメットの指揮はさすがに中低音の活かしかたが絶妙で、テンポも巧みに自在に握り、聴衆をとことん魅了した。第4楽章の最後もみごとだった。

「貴公子」といわれた風貌でデビューしたバシュメットももう60歳。モスクワ・ソロイスツ合奏団も20年を経て、ますますその音を鍛え上げてきたことだろう。また彼らの演奏を静岡で聴くことができる。心待ちにしている。



ユーリ・バシュメット & モスクワ・ソロイスツ合奏団

W.A.モーツアルト：弦楽交響曲 第10番 K.Anh.104(302e)

プラガー・アンコール

ユーリ・バシュメット(ヴィオラ) &
モスクワ・ソロイスツ合奏団 with
稟本大進(ヴァイオリン)

6/6 ㈰ 19:00 開演(18:30 開場)

全指定 ¥6,000(静岡音楽館休館料含)¥5,400.22歳以下¥1,000)

静岡音楽館AOI・ホール

出演／ユーリ・バシュメット(指揮、ヴィオラ)、稟本大進(ヴァイオリン)

モスクワ・ソロイスツ合奏団

曲目／J.S.バッハ：ヴァイオリン協奏曲第1番 イ長調 BWV1041

W.A.モーツアルト：ヴァイオリン協奏曲 第3番 K.364(320e)

Message from Ensemble Intercontemporain

アンサンブル・アンテルコンタンボラン

世界最高峰の現代音楽アンサンブルである、アンサンブル・アンテルコンタンボランがこの5月、AOIに登場します。コンサートで演奏する曲についてメッセージを寄せてくださいました。これを読めば、実際に曲を聴いてみたいと思うのはなぜか、コンサートでお待ちしています。



ensemble
Intercontemporain



提供：アンサンブル・アンテルコンタンボラン
訳：静岡音楽館AOI 学芸員 関本液乃、小林知

ensemble
intercontemporain

jouer avec l'air du temps

ハンブルク ヘルシンキ
ロンドン ベルリン モスクワ
パリ ガルフブルク

世界が静岡にやってくる CONCERT SERIES 2013-14 コンサートシリーズ 2013-14 [第1期]

アンサンブル・アンテルコンタンボラン

Ensemble Intercontemporain

5/6 [木・祝] 16:00 開演(15:30 開場) Paris Berlin

全指定¥4,000 (静岡音楽館会員¥3,600、22歳以下¥1,000)
[Pコード=186-649]

出演 施ズナー・マルティック(指揮)
アンサンブル・アンテルコンタンボラン
曲目 T.ミュライユ：セレンディブ
P.ビュッサー：フルート、ヴィオラ、ハープのためのソナタ
P.ブーレーズ：《アンシーズ》にもとづいて

ブラヴォー・アンコール！

ユーリ・バシュメット(ヴィオラ) &

モスクワ・ソロイスト合奏団 with 稲本大道(ヴァイオリン)

Yuri Bashmet & Moscow Soloists with Daishin Kashimoto

6/6 [木] 19:00 開演(18:30 開場) Moscow Berlin

全指定¥6,000 (静岡音楽館会員¥5,400、22歳以下¥1,000)
[Pコード=186-640]

出演 ユーリ・バシュメット(指揮、ヴィオラ)、稲本大道(ヴァイオリン)
モスクワ・ソロイスト合奏団
曲目 J.S.バッハ：ヴァイオリン協奏曲第1番 イ短調 BWV1041
G.P.テレマン：ヴィオラ協奏曲ト長調 TWV51 : 09
N.J.ガニニ：ヴィオラ協奏曲 イ短調(原曲：ギター四重奏曲第15番 MS42)
W.A.モーツアルト：ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲
変ホ長調 K.364(320d)

まもなく、締切です。

いずれも詳しくは各募集要項をご覧ください。募集要項は静岡音楽館AOI等で配布しているほか、ホームページからダウンロードできます。

第8期 講習生選考時募集中！

「ピアニストのための アンサンブル講座」 (ピアノ伴奏法講座) 受講生

申込締切：

5/12 [日] 必着

第15回

「静岡音楽館AOI コンサート企画募集」 事業

申込締切：

5/31 [金] 必着

クレメンス・ハーゲン(チェロ) 河村尚子(ピアノ)
デュオ・リサイタル

Clemens HAGEN and Hisako KAWAMURA Duo Recital

6/22 [土] 18:00 開演(17:30 開場) Stadthalle Hanover

全指定¥5,000 (静岡音楽館会員¥4,500、22歳以下¥1,000)
[Pコード=186-638]

曲目 A.ウェーベルン：チュロスピアノのための2つの小品

R.シューマン：アーダージュとアレグロ 食イ鳥篇 op.70

L.v.ベートーヴェン：チェロ・ソナタ第5番 ニ長調 op.102-2

S.ラフマニノフ：チュロ・ソナタ 小鳥篇 op.19

ランチタイム コンサート

望月哲也(テノール) 福田進一(ギター)「イギリスのうた」

Tetsuya MOCHIZUKI and Shin-ichi FUKUDA Duo Recital

7/10 [水] 11:30 開演(11:00 開場) *12:30 終演予定 London

*このコンサートは休憩がないため、開演後は会場へのご案内ができません。
時間に余裕をもってご来場ください。

全指定¥1,800 (静岡音楽館会員¥1,620、22歳以下¥1,000)
[Pコード=186-639]

曲目 J.ダウランド：溢れよ我が涙

B.ブリテン：テノールとギターのためのイギリス民謡集 より エニシード100年

エセックス伯爵の第2リュート・ソング(聖母《グロリアーテ》op.53より)

J.ダウランド：来たれ涙き振りよ

B.ブリテン：ノクターナル・ソング op.70 (J.ダウランド：(来たれ涙き振りよ)にもとづく)

中国の歌 op.58

W.ウォルトン：誇み人知らずの恋歌集 より

子どものためのコンサート

ノズルズの不思議な世界と、さまざまなフルートたち

Nozzles, The Wonderland of Flutes

8/17 [土] 15:00 開演(14:30 開場) *16:30 終演予定

全指定¥2,500 (静岡音楽館会員¥2,250、22歳以下¥1,000、観客券¥3,000)
[Pコード=186-640] #このコンサートは未就学児でも入場いただけます。(チケットが必要です。)

出演 フルート・アンサンブル ノズルズ(木ノ監道元、多久潤一郎、古田土明歌、齋藤和志)
横本晋哉(フェーヴ)

曲目 H.バーセル：亡き女王のための葬送行進曲

ファン・ダイク：ファンタジーとエコー

S.ライヒ：木片のための音楽

木ノ監道元：法音の蝶子

C.グノー：マリオネットの葬送行進曲 リカ

私がいつピアノを始めたのか、実ははっきりとは覚えていません。家族の話では幼稚園の年中か年長ということで、それ以来、教鞭をとるようになった今日まで、ずっとピアノに触れあってきました。これまで一度もピアノを辞めたいと思ったことはなく、かといで音楽で生計を立てようと強く意識した時期も無く、それでも好きなピアノを職業に出来てすることはとても幸運だと思っています。

現在、学生にピアノを教えていますが、私が教えている子どもたちはみなとても楽しそうにピアノを学んでいます。たぶん私よりもずっとピアノが好きなんじゃないかと思います。ただ静岡では大都市にくらべると良い音楽に触れるチャンスが少なく、みんなのやる気が見える分、そのことは少し残念です。また機会があっても、学生にとって5,000円前後するチケットはなかなか手が出ません。その意味で静岡音楽館AOIのコンサートシリーズで設定している22歳以下1,000円というチケットは、とても助かっています。

静岡市近郊は他の地域にくらべてクラシック音楽に対する関心度がまだ高くないようになります。先日、浜松国際ピアノコンクールの本選を行ったのですが、満席で入ることが出来ませんでした。東京でも同様のコンクールで満席になることはなかなかないので、浜松市民の関心の高さに驚きました。静岡でもこれと同じくらいクラシック音楽が市民に浸透していくことを望んでいます。そのためAOIにはとても期待しております。

AOIの事業は比較的クラシックの上級者向けの企画が多いように感じます。もう少し初心者向けの事業を増やし、ファン層を広げていく更なる努力が必要だと考えていました。例えば、「静岡の名手たち」オーディションに合格された方を招聘し、静岡市内の小中学校の生徒を招いた演奏会を定期的に開催してはどうでしょうか。今後ともAOIがより市民に愛されるために、市民会議委員として提言していきたいと思います。(談)

静岡音楽館AOIの 市民会議委員って どんな人？⑥

AOIがコンサートを作成する際に音楽監督、企画会議委員の意見の他に、音楽にゆかりのある方や公募により選ばれた委員で構成された市民会議の意見も反映しています。聴衆に近い視点から意見をいただくことによってより良いコンサート作りに努めています。このコーナーではそんな市民会議委員を紹介していきます。



高瀬健一郎
静岡大学附属音楽院
音楽科准教授

東京都交響楽団/ベートーヴェン名曲選

(2013年1月14日)

川勝 平太(静岡県知事)

成25年の成人の日の午後3時間演、ベートーヴェンの序曲・協奏曲・交響曲の名曲で構成された演奏会。会場にワクワクしながら入った、満席である。

指揮は沼尻典氏。管弦楽団は東京都交響楽団。沼尻氏の指揮をじかに見るのも、その音楽を聴くのも初めてだ。指揮者には昔から興味がある、私のような団塊世代では、指揮の好みは、リズムが自在に流れ、魂を揺さぶるフルトヴェングラー狂信派と、流線型のスポーツカーで風をなびかせて疾駆するような職業としたカラヤン崇拜派に分かれ。もう一世代上だと、フルトヴェングラー派とトスカニーニ派に大きく分かれていた。フルトヴェングラーを受け付けない人は、カラヤン派でなければ、けれどもこの清淨さで人好みのペーム派に分かれるといった具合である。

私は、好き嫌いはないが、矛盾するようだが、圧倒的にフルトヴェングラーが性に合っている。フルトヴェングラー指揮の《エグモント》は出だしの音を聴いただけ魅せられる。父がレコードで「情操教育」と称して子守歌代わりに幼少の私に聴かせていたのはトスカニーニ指揮のベートーヴェンだったのだが……。

沼尻氏の最初の演目はベートーヴェンの序曲《エグモント》。沼尻氏はほれぼれするほどっこよく、ダイナミックな身体の動きに合わせて奏でられる曲作りには隙がない。テンポは外さず、オーケストラと息もぴったり、一気呵成にフィナーレの大団円。思わず「ラブリー」を叫びそうになったが、まだ主要演目が控えているのでグッと抑制した。

二曲目は、ベートーヴェンの「ヴァイオリン協奏曲」。独奏者は戸田弥生さん。女性バイオリニストの歴史上の最高峰はフランス女性のジネット・ヌーである。男性で匹敵するのはハイフェッツくらいではないか。ブルッフのロマンチックなヴァイオリン協奏曲を端正に仕上げたハイフェッツの演奏は絶品だ。ヌーはシベリウスとブルームスのヴァイオリン協奏曲の名演を残している。ベートーヴェンの餘音はあるのだろうか。彼女が生きていれば、どのような演奏

をしたのだろうか。戸田さんはヌーの再来か、弓づかいにパワーがあるが、情緒繊細とした表現を織り込める名手だ。この曲のテーマは愛だろう。第1楽章はかぐわしき愛の絶唱であった。ことに第2楽章の演奏

は秀逸。幸福感にあふれ、心のひだにまで美しいフレーズが入り込み、不覚にも涙がこぼれた。天上界のベートーヴェンもさぞ感動したのではないか。そして、第3楽章は愛の成就の歡喜に聴うといった風情であり、見事に締めくられた。名演であり、会場からは万雷の拍手!

締めくくりは「ベートーヴェン交響曲第7番」。この曲の豪快なダイナミズムをしっかりとひきだした名演奏であった。鳴りやまめ拍手にこたえて珍しいベートーヴェンの小曲が演奏された。

ベートーヴェンには、ロマン・ロランが「ベートーヴェンの生涯」で描きあげたように、「苦惱を突きぬけて勝利し、歡喜に至る」という力強い人生哲学があった。交響曲第5番や《エグモント》序曲にそれが典型的に表現されている。シラーの歡喜の詩に調べをついた交響曲第9番はその巣巣上げであったとも言えるだろう。今回の演目もそれに沿ったベートーヴェン像を結んでいる。

ベートーヴェンは交響曲第9番を作曲したあと「何をもって生きる目的にしたのだろうか」とふと思ふことがある。というのも、その後の彼は「後期の弦楽四重奏曲」を立て続けに作曲した。晩年の弦楽四重奏に勝利の歡喜はない。ベートーヴェンの心を占めていたのは懽念ではなかったか。悲喜と感謝を兼ねにした弦楽四重奏曲第15番には感激がある。

ベートーヴェンの最後年の落日の哀しみを知った上で、壮年期の雄社な力に満ちた作品群を改めて聴き直すとき、精神の力強さにもまして、誠実な人格のもつ氣品の美しさが際立つ。それを今回の演奏は見事に示していた。ラブリー!

静岡・室内楽フェスティバル2012
AOI・レジデンス・クヮルテットを聴いて
(2012年11月17日)

平野 昭(音楽評論家)

京のコンサート・シーンで心の底から感動するような日本の演奏家たちによる弦楽四重奏の演奏と久しく出会っていなかった。今日のようなコンサート・ラッシュの中で恒常的な弦楽四重奏団体が無いスパンでの定期的演奏を継続するのは嬉しいことではない、とりわけ新進気鋭の若いアンサンブルにとっては嬉しい時代だ。そうした若い才覚を育ててゆくのも聴衆の役割かもしれない。そのためにはすばらしい演奏との出会いが不可欠だ。「弦楽四重奏曲ってこんなにすばらしい音楽なのか」という感動だ。その期待をけっして裏切らないのがAOI・レジデンス・クヮルテットの演奏会。松原勝也・小林英美・川本嘉之・河野文明という音楽の権威を知り尽くし、互いの音楽観をぶつけ合わせる中で到達した明確なコンセプトによってアンサンブル音楽を創りあげるヴェテランのソリスト集団だ。今回のプログラムで彼等の音楽づくりの秘訣をも垣間見せる表現で聴き手を惹きつけたのがバッハの《フーガの技法》からの3曲、管弦楽やオルガンの演奏でも広く知られる名曲だ。

第1番の単純フーガで広く知られた主題が第2ヴァイオリンに提示され、順次ボリューミーを重ねてゆく。それはまるで自己紹介と自己主張を兼ねた奏者4人のキャラクターの提示でもあった。呼びかけと応答の間があいのなかでバッハのフーガが構築されてゆく音楽プロセスの面白さを見せた。第12番のオクターヴ・カノンでは原主題の逆行による2声部フーガに多彩な技術的対旋律が絡み合って量

かな書きを演じた。そして、序曲は終曲第19番の3つの主題による4声部フーガ。第1ヴァイオリンの主題に対してチェロが反行主題を、さらに進むと第2ヴァイオリンが律動的な走句風主題を、そして、ヴィオラは「バッハの名による主題B-A-C-H」を提示すると、複雑でありながら繊細なテクスチャーによるバッハ音楽の真髄が繰り広げられ、唐突に完結の形で演奏が断ち切られた。この演奏スタイルを選んだAOI・レジデンス・クヮルテットに快哉を贈ろう。

シューマンの弦楽四重奏曲第1番、イ坂潤はこの作曲家のロマン主義の抒情を余すところなく表現したヴェテラン・クヮルテットならではの味わい深いものであった。哀愁と慷慨に満ち、また、自由な展開と多形な旋律素材による変奏が幻想曲風な趣きまでうかがわせて豊かな表情をつくっていた。第2楽章にスケルツォ、第3楽章にアダージョを配置したこの作品の樂章性格のコントラストを見事に生かし、終楽章の終結部に向かってクライマックスを築きあげるなど聴き応えある演奏であった。

このアンサンブルがライフワーク的に取り組んでいるベートーヴェン作品。今回は《ラズモフスキイ第2番》がとりあげられた。全楽章がホ短調とホ長調で構成されているが、この作品の転調には大きな意味があり、そうした転調、そして、長調と短調の入れ替えによる書きのコントラストが聴き所のひとつとなっている。また、音楽表情に感情を込めようとする創作方針をはっきりと打ち出した第2楽章では「極めて豊かな感情をもって演奏する」という異例の指示があるのだが、順次声部を加えてゆく開始冒頭のコラール風主題の宗教的懇意さとも言へてよい落ち着いた深い書きによる表現に感動させられた。

また、第3楽章スケルツォ(明記はない)の中間部トリオはマジョーレ、即ちホ長調の明るい音楽によるラズモフスキイ伯爵の母國であるロシア民族主題「天には神に栄光あれ」が引用されるのだが、この部分のカンタービレな表情にもこのクヮルテットがいかに深く作品を読み込んでいるかが窺えた。この作品に深くうこうしたロシア民族主義的な表現は、プレストによる急速フィナーレの中で維持される「小音」と「ハ音」による持続低音に支えられた「ホ短調」と「ホ長調」の交錯を意識的に浮き彫りさせた演奏解釈にも見られた。

AOI・レジデンス・クヮルテットの今後のベートーヴェンへの期待がますます大きくなつた。



撮影:日高真光

AOI カカリのアーティスト

静岡音楽館AOIの市民会議委員や企画会議委員などを通じ、毎年AOIに関わってくださっているギタリストの福田進一さん。静岡にお住まいだったこともあり、当時、小学生だった息子さんが「子どものための音楽ひろば」を受講されていたそうです。そんな福田さんにお話を伺いました。

これまでにAOIでご出演されたり企画されたりしたコンサートで印象に残っているものは?

たくさんあります。何をお話しいいのか……。AOIでのコンサートをきっかけに親交を深めるようになつた方たち多くいます。コンサートではなくてレコーディングですが、エドワード・フェルナンデスさんとの二重奏はここで始まりましたので、思い出に残っています。AOIでCDを4枚、作りましたね。このホールの音響はすばらしいですし、その当時は静岡に住んでいましたので家から通えたこともあります。

コンサートと言えば、ホセ・マセダさんのコンサート(1995年7月)とかおもしろかったです。小学校3年生だった息子がとても喜んでいました。

現代音楽って何もありなんだ、というか現代音楽かどうかもわからていなかったみたいで、ほんとにいいコンサートをたくさん聴きました。

ホールも、建ってから何年もたつとメンテナンスが必要になりますが、ホールは人間の生きているサイクルを超えてずっと存在していくものなので、長い間に人間の生活が染み込んでいます。音楽はその中から育っていくので、そういう意味で面白いと思います。

以前、生涯に100枚のCDを、とのお話でしたが、現在どのくらいまで進んでいますか。

65~70枚の間だと思いますが正確には把握していません。というのも最近は把握しづらい状況になってきていて、例えばメディア配信のみもあり、数が非常に抽象的になってきています。ただ、これまでどおり年に2枚くらいのペースでやっていくと、順調にいけば75歳くらいには…と思っています。

いまはバッハと日本の現代音楽選の2本立てで取り組んでいるところです。バッハについては年に1枚ずつ出していく予定で、1枚のCDに、原曲がヴァイオリン、チェロ、ピアノなど、いろいろランダムに収録します。ギターは何でもでき、そこがいい点ですね。一方、日本の現代音楽選は、武満徹さんから始まり、日本人の現代作曲家を取り上げていきます。これまでギターの10台くらいですね。

7月のコンサートについて、聴きどころなど教えてください。

生涯100年で取り上げるブリテンは、すばらしいピアニストでしたし、楽器のことを調べ尽くす作曲家でした。取り上げる《ノクターナル》はギターにとって革新的な作品で、20世紀のギター作品の中で最高峰だと言われています。自由自在で精神的な満足が得られる、それがギターなのです。日進月歩で進んでいるのがギターで、古ければいいというものではありません。たくさん持っていますが、手元にあるのは10台くらいですね。

7月のコンサートについて、聴きどころなど教えてください。

生涯100年で取り上げるブリテンは、すばらしいピアニストでしたし、楽器のことを調べ尽くす作曲家でした。取り上げる《ノクターナル》はギターにとって革新的な作品で、20世紀のギター作品の中で最高峰だと言われています。自由自在で精神的な満足が得られる、それがギターなのです。日進月歩で進んでいるのがギターで、古ければいいというものではありません。たくさん持

Ticket de Smile

加盟店のご紹介

Ticket de Smile加盟店は静岡街中に57店舗!ぜひご利用ください。

●チケット記載の日付(期間)に限り、ご利用いただけます。
●チケットを提示されたご本人さまのみ有効です(店舗によって異なる場合があります)。

伊太利亭(以下)

TULLY'S COFFEE

静岡パルコ

静岡市美術館

静岡音楽館AOI

JR静岡駅

静岡科学館
るくわん

サスポート

ホテル
センチュリー
静岡



開業50年、食の安全・地産地消のテイクアウト・レストランです。

■伊太利亭

TEL.054-251-0456

静岡市葵区細屋町3-4(B1)

営業時間／11:00～20:30

火曜日定休

【おすすめ】

- ・アーモーラ
オムライスバーグ 1,080円
(アーモーラトマト、美黄卵、長崎米、富士宮LYB豚 使用)

ドリンクサービス
(グループでもご利用いただけます。)



静岡音楽館AOIをご利用のお客様だけの特別割引!!
Jazzが流れる落ち着きのある雰囲気です!!

■TULLY'S COFFEE 静岡細屋町店

TEL.054-205-5525

静岡市葵区細屋町3-14

営業時間／月～金 7:30～22:00、

土 8:30～23:00、日 8:30～21:00

【おすすめ】

- ・コーヒーと相性ピッタリのホットドック!!

・ポールレバーグッドック

アボカド 350円 / ボルチーニ&トリュフクリーム 350円 / オリジナル 320円



♪おすすめCD

♪AOIゆかりの方々がお気に入りの1枚を紹介します。



ビゼー
歌劇《カルメン》全曲
サイモン・ラトル(指揮)
TOGE-11094-95
(2 SACD + 1 DVD)
発売元: EMI

サイモン・ラトル指揮ベルリン・フィルのカルメンです。ラトルは若い年なので、妙に応援したくなっています。彼らにとって初めてのカルメンということで所々にアレ?と思うところもあるのですが、ラトル夫人のコジエーナ、超美男子テノールのカウフマンなど、聴きどころより見どころ満載。これは野次馬的に美味しいカルメンですよ!

福田進一(ギター)



ベートーヴェン
チェロ・ソナタ全集
クレメンス・ハーゲン(チェロ)&パウル・グルダ(ピアノ)
VICO 60811-2
発売元: Victor

クレメンス・ハーゲン&パウル・グルダ演奏の「ベートーヴェン ピアノとチェロのためのソナタ、変奏曲」です。

ハーゲン氏のチェロはもちろんですが、パウル・グルダの切れの良いピアノも大変気に入っています。

河村尚子(ピアニスト)



ベートーヴェン
弦楽四重奏曲第1番、第16番
ウィーン・ムジークフェライン
弦楽四重奏団
(弦楽曲) ベートーヴェン: 弦楽四重奏曲第1番へ長調 作品18-1 / 弦楽四重奏曲第16番へ長調 作品135
発売元: PLATZ PLDC 548

ベートーヴェンは弦楽四重奏曲を人生の初期・中期・後期に作曲。最初と最後がへ長調で終始完結。青春のアンニュイと晩年の諦念が共鳴し、一体感がある。演奏はウィーン・フィルのコンサート・マスター時代のキュッヘル(第1ヴァイオリン)他。

川勝平太(静岡県知事)



野平一郎芸術監督 尾高實受賞

この度、静岡音楽館AOIの芸術監督 野平一郎が『彼方、そして傍らに~ハープと室内楽オーケストラのための~』という作品で2013年第61回尾高賞を受賞いたしました。尾高賞とは「N響の前身・日本交響楽団専任指揮者で作曲家でもあった尾高尚志氏(1911-1961)の功績をたたえ、すぐれた邦人作曲家によるオーケストラ作品を顕彰するために設けられた作曲賞」(NHK交響楽団ホームページより)です。

AOIレジデンス・クワル텟

静岡県文化財団第26回地域文化活動特別賞受賞

当館の専属弦楽四重奏団、AOIレジデンス・クワル텟が、優れた演奏家による当館の存在価値を伝めるための活動が評価され、平成24年度静岡県文化財団第26回地域文化活動特別賞を受賞いたしました。

1/14のコンサートは、ベートーヴェンの名曲を、一流のオーケストラ、一流の指揮者、ヴァイオリニストで聴くことができ、しかもAOIの響きらしい音響効果もあって、大変楽しいひとときを過ごせた。

ご来場ありがとうございました。当館は室内楽ホールということもあり、オーケストラのコンサートを開催するにはやや難しい面もあるのですが、できるだけオーケストラのプログラムもご用意できるよう、取り組んでいきたいと思います。

携帯電話のOFFを徹底させてほしい。

迷惑をおかけし、申しわけありませんでした。当館では開演前のアナウンスで、携帯電話をはじめとする音の出る機器について電源を切っていただけようお願いしています。お客様におかれましては何卒ご協力のほど、お願いいたします。

静岡音楽館演奏部会員の皆さまへ

お名前、ご連絡先、静岡市内にて変更された場合は、速やかに下記までご連絡ください。なお、平成25年3月をもって会員登録を終了された場合は、平成26年2月末までに静岡音楽館専属弦楽四重奏団へ退会届を提出してください。ご連絡のない場合は自動更新となりますのでご了承ください。

静岡音楽館演奏部 法人会員(2013年6月現在)602名

- (株)アイティレック
- (株)静岡新聞社
- (株)静岡モーション
- (株)タカシマヤ
- (株)伊豆園
- (株)セントラルジャパン(株)
- (株)丸吉事務機
- (株)サンタモニカホールディングス
- (株)静岡タミナルホテル(株)

コンサートシリーズ2013-14

主 催 静岡音楽館AOI (静岡県教育文化財團文化財団)

特別協賛 静清音楽企画

協 賛 アイワ不動産 HARVEST HOMES

コカ・コーラ セントラルジャパン株式会社

古川セントリー 静岡

次のことを予めご了承の上、チケットをお求めください。
皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

- ・価格は税込です。
- ・都合により内容を変更する場合があります。
- ・お客様の都合によるチケット代の返品、座席の変更は致しかねます。
- ・座席での飲食、平野撮影、飲酒、録画は固くお断りいたします。
- ・携帯電話、アラーム時計等の使用はご遠慮ください。
- ・他のお客様の鑑賞の妨げとなる行為は固くお断りいたします。
- ・静岡音楽館AOIは、施設の構造上、各席席価格が動かない状態(開場時)で、お客様をお席ホールへご案内することできないため、通常エレベーターは17階止まりとなっております。隣接待合室にまで1階エレベーターが、T階段で、お持ち上がりいただけます。1階エレベーター前でお待ちいたさいお客様を優先してご案内いたします。
- ・静岡音楽館AOIが主催するコンサート(一部を除く)では、本館半席以上入場いたりません。



料金サービス

要項事前予約(1週間前まで)・託児料: 1人¥1,000
すわん TEL.054-255-5377(09:00～21:00)
音楽電話の場合、お名前・お電話番号を記入してください。

JR静岡駅北口を出てすぐ左



月曜日休館(ただし祝日開館、夏期休館) 09:00～21:30開館
T420-0861 静岡市葵区黒金町1番地の9
各 営 合 せ
054-251-2200 Aoi